

「安倍 9 条改憲 NO !」

2018 年 03 月 22 日

私は「港南台 9 条の会」と「根岸線沿線 9 条の会」のメンバーとして、地域に根差した地道な「平和憲法 9 条を守って、平和を作ろう」の市民運動をしている。安倍政権の憲法改定の動きが急速に進んで来たことを受けて、「安倍 9 条改憲 NO ! 全国市民アクション」を起こし、3,000 万人署名運動が展開されている。発起人に作家の澤地久枝氏、哲学者の梅原猛氏、ジャーナリストの田原総一朗氏、ノーベル賞受賞者の益川敏英氏など、19 人が名を連ねている。これに応じて、港南区に住む有志が「安倍 9 条改憲 NO ! 全国市民アクション港南」を立ち上げた。私は、これにも加わり、月に 2~3 回、磯子、洋光台、港南台、上永谷、本郷台の駅前で、9 条ののぼりを立て、横断幕を張り、チラシを配りながら、署名活動をしている。そして、メンバーがリレートークをし、9 条を守ろうと道行く人々に訴えている。反応はだんだん良くなってきている。関心を引き起こすために声を上げ続けたいと思っている。私はだいたい下記のようなトークをしている。

く ○○ 駅をご通行中の皆さん、こんにちは。私たちは、憲法 9 条を守って、戦争のない平和な国であり続けたいと願っている者たちです。特定の政党や組織、宗教団体から動員された者ではなく、横浜に住む一般市民です。私たちは、子どもや孫たちが戦争に駆り出され、武器を持って戦うような国にたくないという思いで、9 条を守ろうと皆さんに呼びかけています。戦後 73 年間、日本は戦争をしませんでした。平和を維持し、戦死者を一人も出ませんでした。これはひとえに、戦争をしないと謳った憲法 9 条があったからです。この平和憲法を安倍政権は改定し、アメリカと一緒に、自衛隊を外国までも派遣して、戦争をする国にしようとしています。私たちは、これに反対し、平和を守るために、「9 条を変えるな」の署名をお願いしています。

私はキリスト教の牧師です。一人のクリスチャンとして平和を作ることに参加したいと思っています。紀元前 8 世紀、イザヤという預言者がいました。イザヤは、こんな言葉を書き残しています。「剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。」剣、槍は人を殺す武器です。これを打ち直して、鎌や鋤に変える。鎌、鋤は農作物を作る農具です。武器を農具に変え、農作物を作って、分かち合って食べれば、剣を上げて戦争をすることがなくなると語っています。このイザヤの言葉は、ニューヨークの国連本部の壁に刻まれています。平和を求める世界の人々の望みだからです。2,700 年も前に語ったイザヤの言葉は、武器に頼らず、戦争を放棄した日本の憲法に実現されています。イザヤの言葉を実現した 平和憲法を守り、平和を発信していくことが、日本の世界に対する責任だと思います。

日本の憲法はアメリカから押しつけられたものではありません。それは、改憲論者が作り上げたウソ情報です。当時の幣原喜重郎首相がマッカーサーに、日本は戦争を放棄した憲法で、新しい国造りをしたいと申し出、マッカーサーは驚きながらも了解したのです。幣原首相の平和理念は、多くの憲法学者に支えられていたのです。アジア太平洋戦争において 310 万人の日本人が、無残な死を強いられました。戦争の悲劇は言葉にならないほど悲惨なものでした。新憲法が発布された時、もう二度と戦争をしない国になったと、国民は大歓喜して受け入れました。それだけではありません。あの戦争によって、アジア諸国の 2,000 万人以上の人々の命を奪いました。新憲法は、アジアを侵略したことへの謝罪を込めて、戦争を放棄した憲法として受け止められ、アジア諸国の人々にも喜ばれたのです。

日本の憲法は、日本だけでなく、アジアに対して、世界に対して戦争をしない国として立つと宣言した世界史的な意味を持つ憲法なのです。ですから、日本の憲法は世界の宝だと言われ、ノーベル平和賞候補に度々ノミネートされているのです。世界の中の多くの国々は、戦争しない日本に敬意を持ち、人道支援を進めることを喜んでくれています。この平和ブランドを失いたくありません。大事に育てて行きたいと思えます。

私はアメリカという国が好きです。移民によって生まれた国ですから、多様性があり、その多様性が新たなエネルギーを生み出し、活気あふれる国です。自由で、開かれたアメリカは世界の人々の憧れでもあります。

しかし、安倍首相の言うアメリカと 100 パーセント共にあるという言葉は危険を孕んでいます。第二次世界大戦が終わった後、アイゼンハワー大統領が長く、大統領職を務めました。アイゼンハワー大統領は、辞任した時、軍事と産業の結び付きが深く、政治家がコントロールできない状況にあると警告しました。アイゼンハワー大統領の警告は聞かれず、アメリカは軍産共同の経済構造を推し進めました。ですから、アメリカは戦争しなければ、経済が回らないような構造になってしまっています。大戦後、朝鮮戦争から始まり、アジア、南米、アフリカ、中東において、数知れないほどの戦争をしています。

現在、アメリカは国力の低下をきたし、肩代わりをさせるために、日本の自衛隊をアメリカの軍隊に引き込みたいのです。安倍首相が、アメリカと 100 パーセント共にあるというのは、自衛隊が海外に行って、アメリカの戦争に参加するということです。安倍首相は、憲法に認められていない自衛隊は可哀そうだから、憲法に自衛隊を明記すると言っています。逆です。憲法 9 条があるから自衛隊は守られて来たのです。憲法を変え、海外に派遣されたら、自衛隊員に戦死者が出るでしょう。その方が、もっと可哀そうです。

日本の上空をアメリカの飛行機とヘリコプターが我が物顔で飛んでいます。沖縄では、墜落、不時着、落下物が続いています。人の上、町の中に落ちれば、人の命と家屋を失います。安倍首相は、二言目には「国民の命と財産を守る」と言いますが、沖縄県民は国民ではないのかと問いたい。北朝鮮の危機を煽り、軍備の拡大を図っています。アメリカから数千億円もの、危険なオスプレイ、レーダーに移らないステルス戦闘機、ミサイル防衛システムなどを購入すると言っています。一方で、生活保護費を下げると言っている。なぜ下げるのか。時給で働く非正規労働者の賃金よりも高いからだと言う。なぜ低い方に合わせるのか。低い時給を上げ、非正規労働者の生活を守るべきではないか。政治は生きることに困難を強いられている人々が生き易いようにすることが使命です。軍備増強のために税金をふんだんに費やし、困難な人々を顧みないことほど貧しい政治はありません。

戦争になれば、莫大な予算が必要になります。福祉、医療、教育行政は大幅に縮小され、国民の生活が困窮することは目に見えています。平和こそが生活を保障するのです。

イエス・キリストは「剣を取る者は皆、剣で滅びる」と言いました。武力で立とうとする者は、武力で打ち負かされると言ったのです。世界史を見れば、その通りです。武力で立った大帝国は皆、滅んでいきました。武力ではなく、平和の力を信じましょう。憲法の前文はこう述べています。「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した、われらは平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永久に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。」皆さん、この精神で、9 条を守り抜いて、平和を実現しましょう。署名をお願いします。>